

建築版	5-1	施工段階 屋上工事	設備工事： 屋上設備機器設置	電気	○	設備工事 ポイントシート (5-1)
				空調	○	
				衛生	○	
				その他	—	

建物全体に電気や熱等を供給する主要な設備機器は、地下や屋上にあることが多く、さらにその必要スペースは機器の数倍に及ぶものも多い。また、設置には建物の補強が必要となることもある。また、揚重計画との調整も必要であり、建物の施工計画にも影響が大きい。  
(1-4、1-5を併せて参照のこと)

### ポイント

#### ■屋上に設置する代表的な設備機器

- ・キュービクル、空調室外機等があります。

#### ■設置場所・メンテナンススペース

- ・設備機器は概ね重量物なので、梁上部に配置するよう計画します。出来ない場合は構造設計者と協議の上、重量次第では機器設置面の躯体補強を行います。
- ・設置する設備機器によってメンテナンススペースが定められていますので、必ず確保するよう配置します。
- ・受水槽は屋内外を問わず6面点検できることが必要です。
- ・設備や電気の床転がし配管がある場合にはスムーズに歩けるようキャットウォークを建築で設けます。メンテしやすく、かつ施工しやすい計画をしましょう。



PAC屋外機群  
約2t



キュービクル  
分割搬入約2t



高置水槽  
水量による

### 先輩アドバイス

- ・設置する設備機器の重量や寸法を確認し、搬入方法や搬入ルート（竣工後の改修工事も見据える）をメーカーや保守関係者と調整しておく、竣工後の保守業務も円滑に進められます。

### チェック項目

- 設備機器のメンテナンススペースは確保できていますか。
- 支持部材の強度は適切ですか。

### 失敗すると...

- ・設備機器の離隔距離が確保されていないことで、機器の更新・交換が困難になり、建築主の保守費用のコストアップにつながります。また、竣工時では諸官庁検査で指摘を受け、是正しないと検査済書を受理できず、引渡しできないといったトラブルになりかねません。

**キュービクルの保守・点検上の離隔距離**  
 屋内に設置するキュービクルの施設  
 キュービクルを屋内に設置する場合、金属箱の周囲との保有距離、他建築物又は物品との離隔距離は、1130-2表の区分に従い保持すること。

●1130-2表 キュービクルの保有距離

保有距離を確保する部分	保有距離 (m)
点検を行う面	0.6以上
操作を行う面	屏幅※ + 保安上有効な距離以上
溶接などの構造で換気口がある面	0.2以上
溶接などの構造で換気口がない面	—

[備考1] 溶接などの構造とは、溶接又はねじ止めなどにより壁に固定されている場合をいう。  
 [備考2] ※は屏幅が1m未満の場合は1mとする。  
 [備考3] 保安上有効な距離とは、人の移動に支障をきたさない距離をいう。

※高圧受電設備規程より抜粋

#### 保守点検の一例（キュービクル廻り）

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・ 性能向上	工期短縮 ・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	—	○	○	○	—	—	—	—	—
備考	参 考 文 献 :						初版発行	2020年12月	
							改訂	2021年11月	